

# あなたにとっての社会教育施設の存続問題、どう考える???

戸田博之(代理発表)、福澄孝博、天文教育普及研究会生涯学習施設支援ワーキンググループ

## 1. はじめに

天文教育普及研究会のワーキンググループ（以下、WG）の1つである「生涯学習施設支援WG」は、杉並区立科学館が廃止されそうだ、という動きを受けて発足し、これまでも①設立の経緯と活動方針（初期）の報告[1]、②主に1年目の活動結果を受けての中間報告的講演[2]などをしてきたが、その後の調査研究の結果・現状をさらに報告すると共に、「一般の方がたがこのような取り組みをどのように考えられるか」「皆さんとWGの間に、どのようなコラボレーションが可能か」を議論したい。

## 2. これまで・これから概要

今までにやったことこれから手掛けたことを簡単に列記する。なお、WG活動の基本方針は「個別の施設に対する支援をするのではなく、『施設を支援しようと活動する人びとに対し、裏付けとなるような情報を提供する』という、いわば俯瞰的立場からの支援活動」となっている。

今までにやったこと、取り組み中のこと

○JPA 白書や2009年世界天文年に際して作成された施設一覧などを現状(主にインターネットで調査)と比較した。

○いくつかの個別事例(過去の支援活動、巧く運営されている施設の成功要因など)につき取り纏めつつある：昨年度天文教育研究会の招待講演や集録原稿[2]に更に肉付けするイメージ。

※これらについてはポスターにて詳細に紹介する

これから手掛けたこと

○実際に廃止や休止となった後に、その施設・予算が結局何に活用されたかの追跡調査

○データの公開、調査結果の公開：効率の良い公開方法の検討を含む

○新たなWGメンバーの確保：他団体との関係も深めたい

○WG解散後、の措置を考える(特に、情報収集窓口)

## 3. このWGの活動をどのように纏めるか

実際に施設の変遷データ分析をしてみて感じたこと

○データとして、「地方の新聞」「議会だより」「Googleなどで検索したページ(URI)」なども集めるのが肝要とわかってきた。

○施設は残っているのに、天文設備だけが廃止されている場合、元もと何があったのかを簡単には調べられない。どうしても我われが元もと知っていた情報だけに偏りがちになる。

○そもそも、元データが作成された時点で廃止・休止している施設は載っていないことが多い：資料によっては掲載されているが、網羅とは限らないことには留意が必要。

○調査を進めている内にもどんどん情報が変わってしまう。

○特に、外部にはあまり目につかない「休止」の情報をはじめ、情報収集には近隣の方からの提供が不可欠であり、肝要である。

一方で、個別事案の資料収集は…：いくつかの事案だけに絞っても良いから深く調査・収集すべき

○議会議事録だと「あっさり」し過ぎている。その前段階の委員会の動画や議事録などもおさえないと。

○個別事例を他の事例と比較し易くするために、必要最小限の必要項目を取り決めるべきだ。

○逆の視点から、被調査者が我われから取材を受けた際、施設の変遷データを提供する事へのメリット感とは何だろうか？これが出せるように留意して活動すれば、それがまさしく調査の有り方の指針。

公開、保存の手順を考えよう：インターネットを活用した手順と、紙ベースの手順とが考えられる

- インターネットでの調査報告・事例取りまとめの公開は、天文教育普及研究会 Website に新たに追加されたページ、WG のページに置く：解散後はどうなる？（今年度が最終年度（6月まで））。
- 紙ベースの発表も別途用意。基本は「天文教育」誌への連載記事：現在連載第3回。
- 上記とは別に、中身全体である必要はなくカタログ的に良いから、あちこちで出版。
- さらに、我われが積極的に研究発表すれば、集録に載るし検索にも掛かるようになるう。

#### 4. WG 解散後の(情報収集)活動は？

3. の最後に触れたように今後も継続して積極的な情報発信を行うが、これは解散後も続けられるであろう。特に考えなければならないのは、「解散後の情報収集はどうなるか」である。基本的には、我われが有意義な情報(収集活動による新情報も含めた)を提供し続けていれば、何かあった時に「あそこに報告しておこう」と一般の方がたからも思っただけで戴けるのではないだろうか。

具体的には...

- 休館・廃止などの『リストだけで良いから』定期的、恒久的にチェックして情報管理。
  - 上記「リスト」とは別に、施設の存廃情報を書き込んでもらうブログを用意する：なりそうだ、はともかくとして「なりました」を広く一般の方から書き込んでもらう。
- さて、今回の「星なかまの集い～天文楽サミット～」での発表ですが...

WG 活動・WG 解散後に関わらず、本調査研究には一般の方からお寄せ戴く情報も要となるが、アマチュアの方がたが施設の存続・在り方についてどう考えるかを議論するために参加した。

当初、このような活動をしていることを紹介し、周囲の情報や新たな WG メンバーを得られないか呼び掛けるつもりであったが、それよりもひとつ前段階、アマチュアの方がたが施設に対しどのような意識を持っているか、を『お尋ねしてみる』ことにした。即ち、我われの活動の紹介・参加者がどのように捉えるかその場で聞いてみる・アマチュアとどのようなコラボができそうか議論 といった流れを目論んでいる。ぜひ、皆さんも積極的にご意見・ご助言をくだされば幸甚である。

なお、今回に先立ち、昨年9月の天文愛好者ミーティング 2016 名寄大会でも同様の発表を行った。事例発表の割り当て時間は短く、十分な議論ができたとは言いきれないが、概して施設の存続支援や情報提供に好感を示して戴けた。また、何人かの方とはその後の休憩時間や後日の電子メールのやり取りの中でご助言をいただき議論出来た。詳しい結果はここでは省略するが、天文教育誌の連載記事中で報告されている。

#### 5. おわりに

以上、WG の現状報告と今後の活動方針を紹介した。本文中に述べた「天文教育」誌での連載記事 [3] も既に始まった。いよいよ、WG は取り纏めの最終段階だ。これからも広く一般の皆さんのご意見ご情報ご協力を受けながら、充実した最終報告に向け鋭意活動していきたいと考えますので、どうぞ我われ WG 「も」 ご支援くださいませ。

#### 参考文献

- [1] 福澄孝博ら (2014) 「生涯学習施設支援ワーキンググループ」の活動紹介, 第 28 回天文教育研究会集録, 43.  
この他にも福澄・WG の共同発表名義で、「日本公開天文台協会第 9 回全国大会」「天文教育普及研究会関西支部会」(共に 2014 年)でも発表した。
- [2] 福澄孝博 (2015) 「社会教育施設の現状分析とこれから ～我々には何が出来るか～」, 第 29 回天文教育研究会集録, 43.
- [3] 福澄孝博ら (2016) 「社会教育施設について考える(WG 報告)」, 天文教育, 第 28 巻第 5 号(2016 年 9 月号), 14. など